

三里塚・ジェット闘争に敵対する「特別決議」

日刊 動労千葉

80.9.24
No. 66

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九・（公衆）四三三・七二〇七



第36回全国大会報告(やま)

裏切者「土屋耕を」エロニッて

新たな破壊介入を策す「本部」反動分子

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

第三六回（名古屋）大会は、完全に孤立し破綻してしまつた「本部」反動分子が、動労を見るも無惨に喰いつぶし、没落の道づれにしようとする重大な危機Ⅱセクト的引きまわしの極致を示しました。さつと見ても ①反合闘争完全放棄路線の確定Ⅱ「大胆な妥協路線」。②三里塚・ジェット闘争への介入破壊路線へのエスカレート。③破産した「水本」デマ運動に替る「反ファシズム……」のベールの「新たな反謀略運動」路線のもちこみ。④財政の私物化Ⅱ喰いつぶし⑤動労型労働運動の基本路線をなげすて、「全動労問題」を革マルセクトの御都合主義で清算し、日本共産党との反動的野合路線に大転換。……等々と基本路線を、今日このようなセクト的思惑で破壊し、なし崩し的に大転換させていく事を絶対に許してはなりません。各地本大会や職場等での徹底論議・批判をつみ上げ、「本部」反動分子一掃Ⅱ動労大改革を今こそ力強く勝ちとつていこうではありませんか。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

「本部」反動分子の孤立・破産ゆえの居直り

第三六回全国大会で、佐倉支部における裏切分子・土屋耕をピエロに仕立て上げ「三里塚・ジェット闘争に関する特別決議」なるものをデッチ上げたことの中に、「本部」反動分子の路線的破産と新たな破壊介入策動のエスカレートが端的に示されています。

三里塚問題について「方針書」では全く総括も位置づけもありません「総評・社会党の方針で闘う」とボツンと書かれています。「一線を画する」敵対路線をとつて以降、敵対行動のみをとり続けてきた彼らが、何故に、第三六回全国大会でこのような三〇四行の「方針」を書き、わざわざ「土屋耕」をひっぱり出して「特別決議」を読ませたのでしょうか。

総評・社会党ですらかつて一度も「三里塚と一線を画する」なる方針をとつた事などなく、むしろ「一線を画する」路線は各界から大きな批判をうけてきたことを、彼らはどう総括しているというのでしょうか。

一貫した「三里塚・ジェット」への敵対者Ⅱ「本部」反動分子ノ

そもそも三里塚・ジェット闘争は、動労千葉が直接関わる地元地本として、動労の全国の仲間

呼びかけ、第九四回中央委員会決議（七六年十二月）、第三三回全国大会（七七年・於水上）方針として決定確認され、闘いをつみ上げてきていたものです。動労千葉はこの全国大会決定にもとづき、全力をあげて闘いぬいてきましたが、これに対し、一貫してセクト的に敵対行動を続けてきたのが「本部」反動分子であり、その頂点に第三四回津山大会でのファシショ的暴挙Ⅱ「一線を画する」なる敵対方針の強行があったと言えます。

ところが、今日の階級情勢の中で、三里塚闘争こそが、全国の市民・住民・農漁民から支持された闘いであり、反戦・反基地・反原発・反公害も含むあらゆる階層の統一した闘いの砦としてますます発展していることは事実です。しかも来年三月のジェット燃料暫定貨車輸送期限切れに直面し、社会党をはじめ総評や国労も含め三里塚とジェット闘争から無関係ではいられないという気運が大きくなりあがってきていることに孤立した「本部」反動分子が焦り、破廉恥にもこのような「方針」をペテン的に出してきたのです。

新たな敵対許さず、二期工事阻止Ⅱジェット延長阻止へ、共に決起しようノ

全国の組合員の皆さん！ 今こそ動労本来の闘う伝統に立ちかえり、反対同盟・動労千葉の闘い

（裏に続く）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよノ